4. 代謝・内分泌疾患

文献

向野義人、恒矢保雄、服部徹．肥満の耳針療法(2)−皮電点の意義について− *全日本鍼灸学会雑誌* 1983; 32(3): 226-32. 医中誌 Web ID: 1984047876

1. 目的

耳の皮電点が機能的単位であるかどうかの評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

三重大学医学部第三内科、三重、日本

4. 参加者

肥満度 120%以上の単純性肥満の外来患者 50 名。空腹時血糖 110mg/dl を超える患者、肥満の合併症のため薬物の投与を受けている患者は除外した。

5. 介入

Arm 1: 皮電点治療群 (25 名)。皮電点に該当する場所に皮内針を約 1mm の深さに 1 か所 2 本ずつ計 4 本を刺入し皮内針用テープで固定し、1 週間毎に針を交換し、4 週間治療。

Arm 2: 非皮電点治療群 (25 名)。施鍼部位が非皮電点である他は Arm1 と同様。

6. 主なアウトカム評価項目

摂食量、満腹感、空腹感、水分摂取量の変化、空腹時血糖、血中の遊離脂肪酸、インスリン、血清 Na、血清浸透圧の変化

7. 主な結果

Arm 1 において有意に摂食量減少 ($P<0.01$)、満腹感亢進、空腹感減少 ($P<0.05$)、水分摂取量は減少傾向を認めたが有意ではなかった。空腹時血糖は両群共に有意に減少した時期が存在した。インスリンは Arm 1 において有意に減少したが、Arm 2 の変化は有意でなかった。血清 Na および血清浸透圧は Arm 1 では有意な低下を認め、その効果は 4 週目も持続した。浸透圧では差の平均値間にも有意差を認めた。Arm 2 においてはいずれも有意な変化を認めなかった。

8. 結論

肺領域皮電点は機能的単位である。

9. 鍼灸学的言及

皮内針の留置部位は神経解剖学的観点から選択され、インピーダンス測定により決定された。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

迷走神経分布のある耳甲介腔肺領域という限定された領域における皮電点と非皮電点の効果の違いから皮電点が機能的単位 (ツボ) であることを実証した大変興味深い臨床研究である。特に、臨床現場で実際の肥満患者を対象に行われた点、主観的項目だけでなく、生化学検査を行っている点は評価できる。アウトカム項目にある遊離脂肪酸の変化について表 2 のパラメータの比較にはデータ記載されているが、本文中に結果報告がない。また、多角的な検証を行っているが故にデータの分析結果が複雑になっている。また、本実験は 2 重マスク化されていないので、皮内鍼では困難かも知れないが、シャム鍼を用いた 2 重マスク化試験を行うことが望ましい。被験者 50 名の内、44 名が女性、6 名が男性だが、今後の研究で性差による効果の違いの有無が解明されることを期待する。

12. Abstractor

岡田明子 2010.12.12